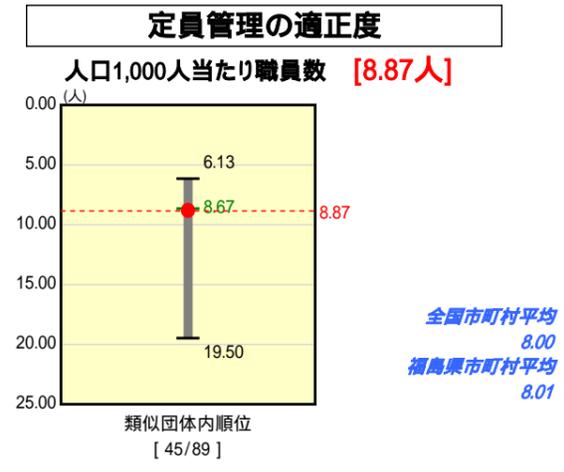
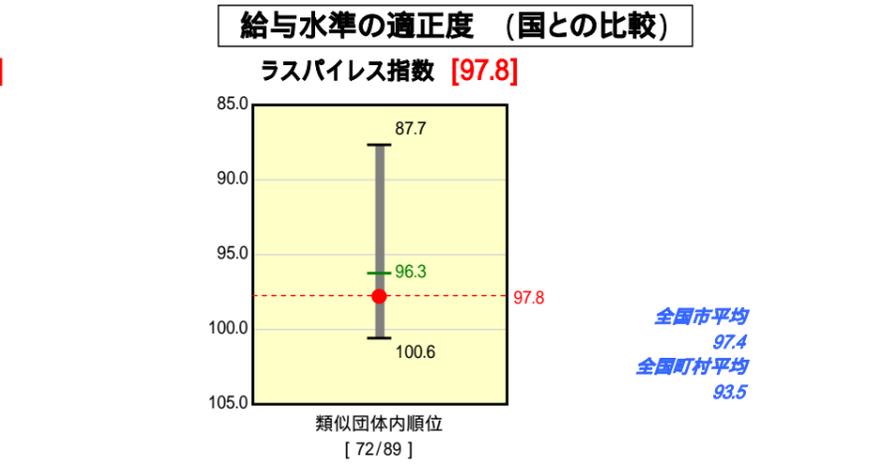
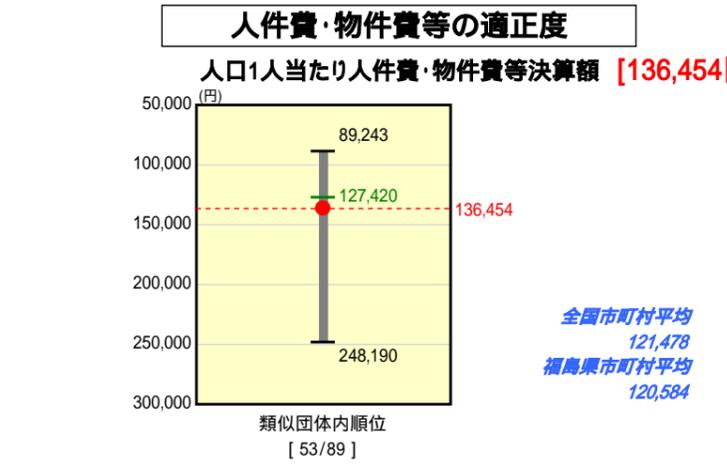
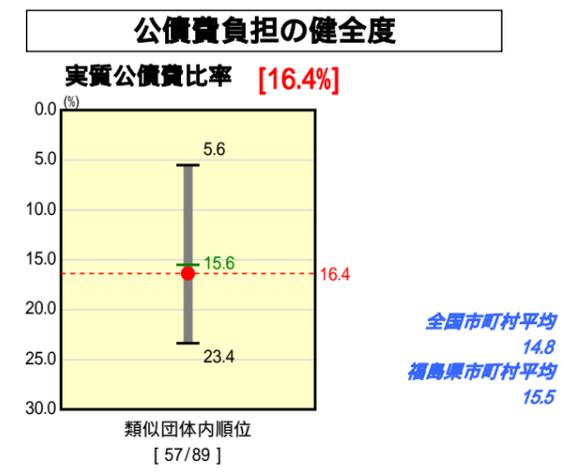
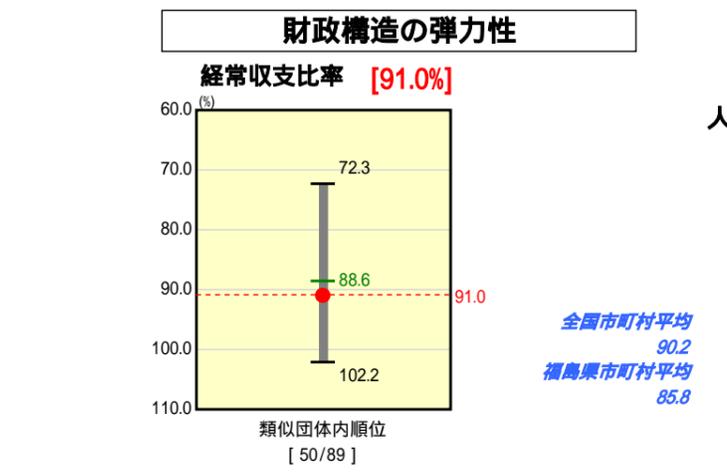
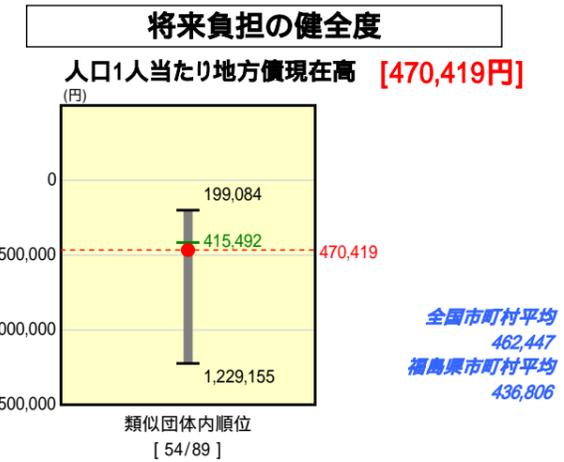
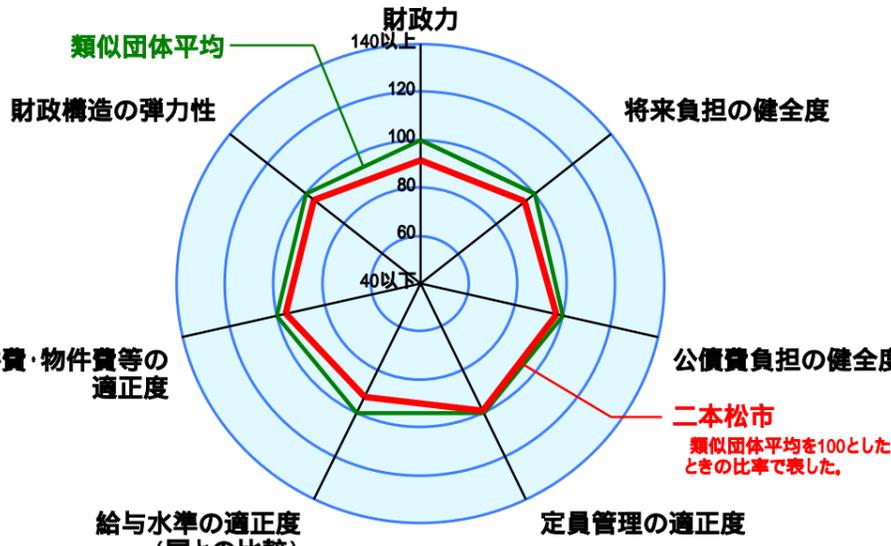
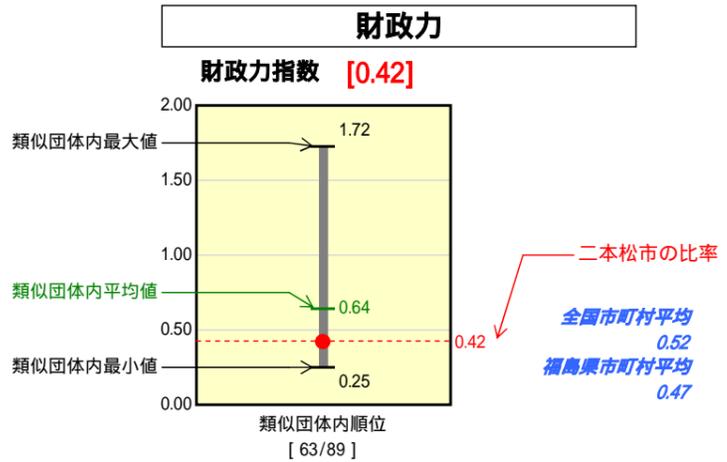


市町村財政比較分析表(平成17年度普通会計決算)

福島県 二本松市

人口	63,946	人(H18.3.31現在)
面積	344.65	km ²
歳入総額	26,603,022	千円
歳出総額	25,953,899	千円
実質収支	541,802	千円



分析欄

【財政力指数】
長引く景気の低迷が続く中で、市税については前年度比0.8%増となっているものの財政力指数については県平均、類似団体平均値を下回っている状況である。今後はより一層の安定した行財政基盤の確保を図るため市税等の歳入確保に努めるとともに、平成18年3月に市政改革集中プラン行動計画を策定し、物件費、補助費等の事務事業の見直し(5年間で約2億円)、経常経費の削減(10年間で30%の削減)、定員管理の適正化(平成20年度まで採用職員の見合わせ)、職員給与の見直し(特勤手当の廃止、旅費日当の廃止等)等により歳出削減に努める。

【経常収支比率】
経常経費の削減に取り組んでいるものの扶助費や特別会計への繰出金の増加により県平均、類似団体平均値を上回っており、財政の硬直化が顕著である。今後の対応としては「財政力指数」の項目と同じ。

【実質公債費比率】
元利償還金、準元利償還金が増加する一方、交付税、臨財債発行可能額の減により標準財政規模が減となり、実質公債費比率は増加の兆しが見られる。今後、高金利の市債の繰上償還や借換債の発行、公営企業の見直しや債務負担行為の繰上償還等を行い、償還額の平準化及び実質公債費比率の急激な上昇を抑える。

【人口1人当たり地方債現在高】
合併前の旧4市町において実施した普通建設事業に係る起債発行により県平均、類似団体平均値を上回っている。今後は長

期総合計画に基づき、事業内容を更に厳選した上で合併特例債等有利な地方債を活用しながら計画的に事業を実施し、後年度負担の軽減、財政基盤の健全化に努める。

【ラスパイレス指数】
ラスパイレス指数については全国平均、類似団体平均値から見ても若干高い状況にあるが、合併時には昇任・昇格・高齢者対策等の新市の給与体系を抑制型として見直しを行い、合併に伴う給料調整を行っている。今後も引き続き定員適正化(平成22年度までに12%程度の職員削減)に積極的に努める。

【人口1,000人当たり職員数】
平成17年12月1日の合併により職員数が一時的に増加しているため、類似団体平均値より若干上回っているが、定員適正化計画を策定し、新規採用職員の不補充(平成20年度まで凍結)、希望退職者意向調査の実施、退職勧奨制度の創設等により職員数の削減を図り、早期に職員数の適正化を図る。

【人口1人当たり人件費・物件費等決算額】
類似団体平均値を上回っているのは、主に物件費を要因としており、平成17年12月の合併による電算システム統合関係経費やその他の合併調整に係る経費である。また、議会議員(72名)、農業委員(57名)の在任特例期間(議会議員は平成18年6月30日まで、農業委員は平成18年7月31日まで)中のため人件費が増加している要因となっている。